



News Letter

14

昭和女子大学 現代ビジネス研究所 | ニューズレター |

Greeting

新学長挨拶「ビジ研研究員の皆様へ」

昭和女子大学
学長 小原 奈津子

現代ビジネス研究所(通称ビジ研)の魅力の一つは、多様な経験をもつ社会人研究員がそれぞれの研究目的、活動目標をもって活動しているところです。年度末の研究報告会で発表される研究は、ビジ研ならではの社会人の視点に立ったものが多く、興味深いです。学術的観点で指摘すべき点も少なくはないですが、いわゆる学術研究とは異なる、独自性のあるテーマも多く、今後学術的な考察・手法を補完しつつ発展させてほしいと思いつつ楽しんで拝聴しています。

私は繊維材料学を専門とする教員であり、研究も進めています。現在は「廃棄羊毛繊維の化学的手法による機能性材料への再資源化—消臭機能の付与—」というテーマで研究しています(なかなか捗っていませんが)。羊毛は比較的成本の高い天然繊維であり性能的に優秀な繊維素材です。そこで、使用済みもしくは製造段階で廃棄された羊毛の化学構造を変化させることによって消臭性を付与し、消臭性材料として再使用することを提案する研究です。実験系の研究なので多くの設備や時間が必要ですが、新しい事実の発見・発明を求めて時間の許す限り少しずつ研究を進めています。私の研究は何かを調べたり、測ったりした結果を考察するというよりは、新しいアイデア、化学的手法を提案するものなので、仮説が当たったり、外れたりします。近年、この仮説が外れて失敗することが多く、自信喪失に陥ることもしばしばですが、予想や仮説通りの結果が得られた時は、実に爽快、達成感を感じます。こう書くと少しギャップのようですが、成功は失敗と努力の蓄積の結果であり、これが研究の醍醐味です。研究を仕事の一部にしている者でもこのように努力、苦心、失敗そしてたまに小さい成功の繰り返しですので、研究員の皆様には是非挫けずに、楽しみながら自分の研究を深めていただきたいと思います。これからも研究員の皆様のさらなる努力と健闘に期待しています。



Column

「愛の不時着」の魅力とは

昭和女子大学現代ビジネス研究所
所長 八代 尚宏

少子化は日本の大きな問題だが、これは恋愛ドラマの不作とも関係するのではないか。恋愛小説のエッセンスは「制約条件付きの最大化問題」という点で経済学と共通している。家計や企業が限られた所得や資源の制約条件の下で、効用や利益の最大化を目指すことが効率的な市場経済の前提となる。これは優れた恋愛小説でも同じであり、「ロメオとジュリエット」では、敵対する家族同士という制約条件があつてこそ、その壁にぶつかって二人の恋が燃え上がるのである。

逆に、誰と恋愛して結婚しても良い現代の自由な社会では、結婚の制約条件を考案することは容易ではなく、日本の恋愛ドラマは不毛である。しかし、南北に分断された韓国と北朝鮮の間には、非武装地帯に不時着した韓国財閥の娘と北朝鮮將軍の息子にとって、お互いの国や家族を捨てなければ恋愛は成立しないという、逃げ場のない現実がある。そうした厳しい制約条件を設定し、それでもハッピーエンドに持ち込んだ原作者の努力は称えられるべきだろう。

もっとも、単なる思い付きではなく、この「制約条件付きの最大化問題」を明確に意識して、時代や場所に関わらず、それに関連する方程式を解くことができれば、素人でもヒット作品を生み出す可能性はある。現代ビジネス研究所でも誰か挑戦する方はいないだろうか。

昭和女子大学大学院福祉社会研究専攻共催 Webinarシンポジウム 「Withコロナ時代の保育所経営」

◇パネリスト

轟 麻衣子 氏(株式会社ポピンズホールディングス代表取締役社長)
坂井 徹 氏(株式会社JPホールディングス代表取締役社長)
佐久間 貴子 氏(株式会社ベネッセスタイルケア取締役)
Merete L. Kropp 氏(駒沢パークインターナショナルスクール校長)
坂東 真理子 理事長・総長

◇モデレーター・司会

八代 尚宏 所長(昭和女子大学副学長・グローバルビジネス学部特命教授)

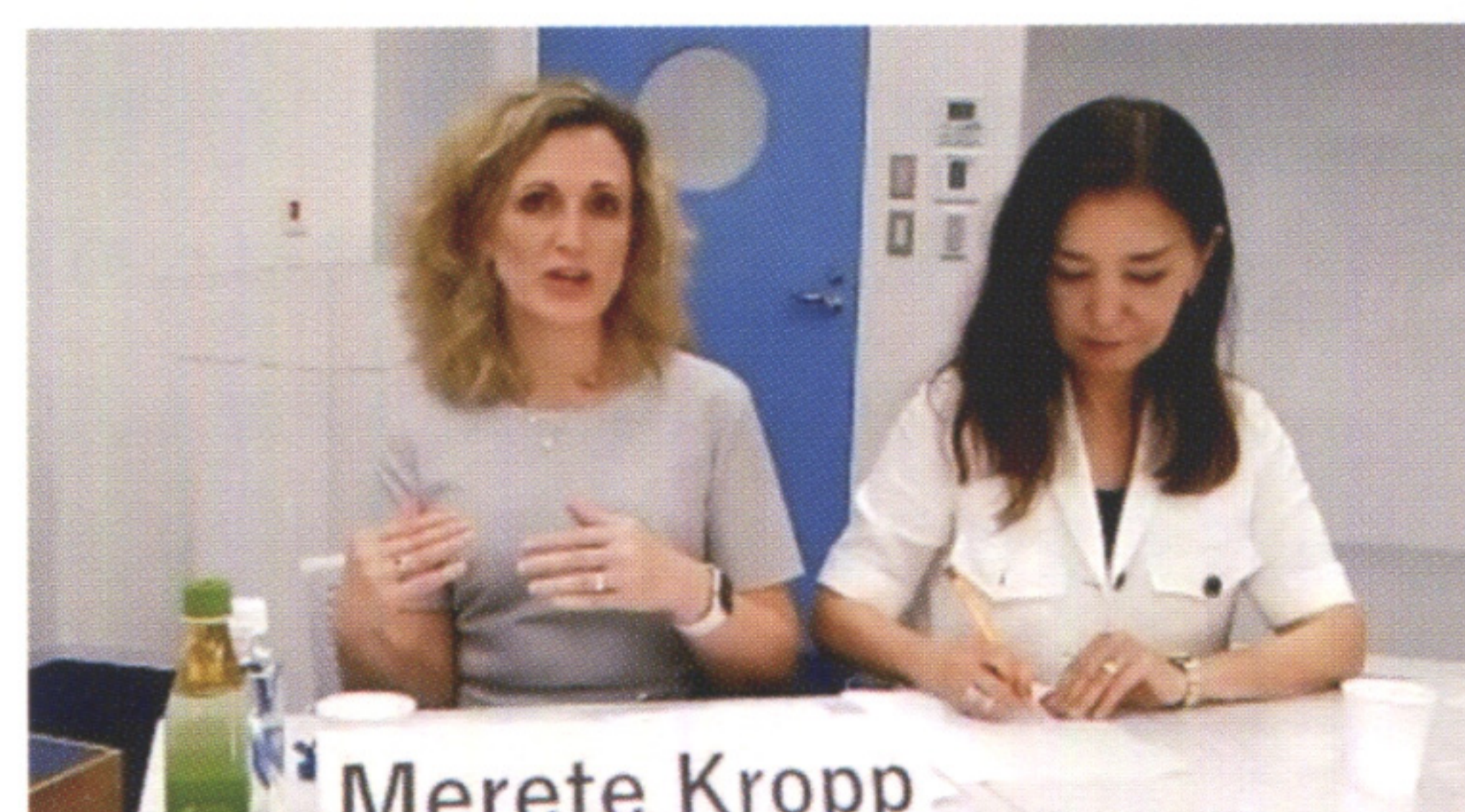
◇通訳

柏木 厚子 教授(昭和女子大学国際学部)

コロナ危機でもっとも大きな影響を受けたのは、対人接触が避けられないエッセンシャルワーカーの保育士です。大人のように社会的距離が取り難い児童を対象として、どのように対応し、職員のモチベーションや使命感が維持されたのでしょうか。そしてその経験は、第2波の可能性や新たな感染症のリスクもある中で、今後の保育サービスにおいて提供者・利用者の双方にどのような変化やイノベーションをもたらす可能性があるのでしょうか。

大都市圏の保育所は、これまでの量的拡大から、質の向上にも重点を置く必要があります。利用者の多様なニーズに沿った保育サービスの高付加価値化と、その魅力をアピールしていくことが、今後の保育所経営の大きなカギとなります。行政の定めた仕組みに従えば良い時代は終わり、経営上の創意と工夫がいっそう求められます。施設の責任者育成へのニーズに対応し、昭和女子大学では、保育・福祉施設経営に特化した1年制の社会人大学院コースを2021年度から開設予定です。

本シンポジウムでは、こうした観点から保育サービスの前線で活躍する内外の皆様に登壇いただき、その経験や実感をご紹介します。



2019年度プロジェクト活動報告会・交流会

日時:2020年6月20日(土)13:30~16:00

会場:オンライン(Zoom)にて開催

例年4月に開催してきた前年度(2019年度)の研究報告会ですが、新型コロナの影響により、今年は6月にオンラインでの開催となりました。助成金採択者10組による発表の後、引き続きオンライン交流会も開催しました。「対面でないのは物足りない」とのご意見もある中、「いつも決まった方とばかり話してしまうので、こういう機会も良かった」という声もいただきました。Withコロナ時代のイベントのあり方を考える良い機会となりました。

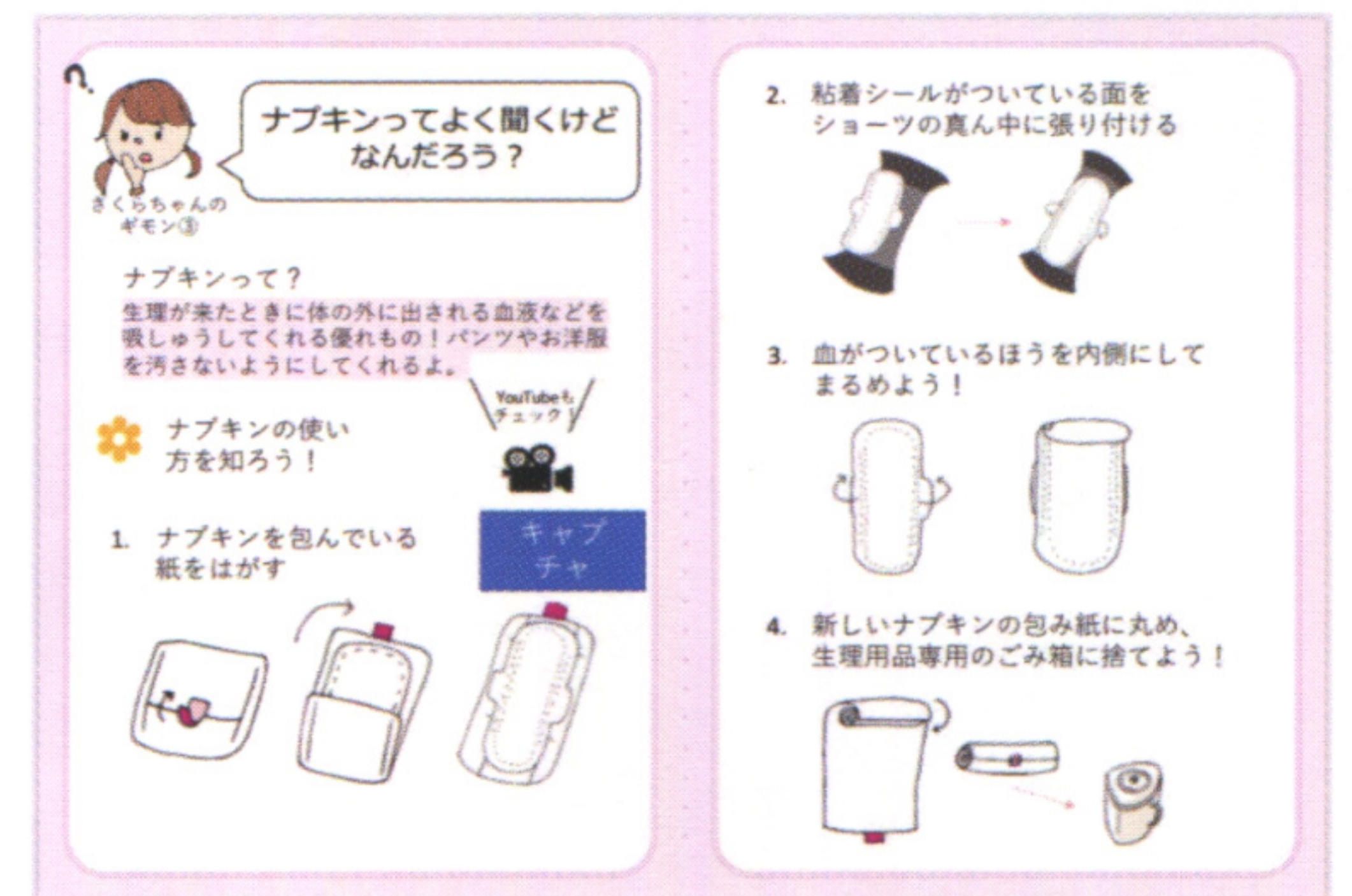


株式会社三恵 × 昭和女子大学プロジェクト 前期活動報告

グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科
3年 丸山 紗英

現在、「株式会社三恵 × 昭和女子大学プロジェクト」では、第一弾であるファーストブラに続き、初潮を迎える女児向けのサニタリーショーツの開発に取り組んでいます。本プロジェクトは主にインナーウェアの販売を行っている株式会社三恵様にご協力をいただき、協働ブランド“My little blossom”として約4年にわたり商品開発を行っています。

前期では4年生から3年生へバトンが渡され、新たに環境デザイン学科、ビジネスデザイン学科の1・2年生を迎え、気持ち新たに活動が始まりました。ファーストブラではSNSでの販促活動を精力的に行い、サニタリーショーツ発売時にも生かせるよう多様な広告手段を模索しています。そしてサニタリーショーツではモニターの皆様にご協力いただき、実際にサンプルを着用してもらうことでより具体的なご意見・改善点をいただきました。また、昨年度行ったフォーカスインタビューにて、「生理や女の子の体の変化についてわかりやすく説明する冊子のようなものがあったら嬉しい」という声を形にしたPDF形式の冊子も作成しています。さらにPDFに付随して解説動画があれば、より気軽に楽しく生理のこと・体のことを学んでもらえるのではないかと考え、YouTube動画作成にも取り掛かっています。



コロナ後に実感したプラスの変化

本年度に入り、新型コロナウイルスの影響で対面での活動が難しく、企業様との合同ミーティング含めほぼ全てのミーティングをオンラインで行っています。当初は進捗状況に不安を感じていましたが、実際行ってみると集まれる回数が増えたことからコロナ以前よりもテンポアップした活動ができているように感じています。また、今年度からプロジェクトメンバーを販促チーム、デザインチーム、冊子チームの3つに分けて活動を行いました。チームとして活動することで、コミュニケーションが円滑になった他、1人1人により大きな責任感が生まれたことも実感しています。今後は「良い商品を開発すること」の先にある、「どのように売り出していくのか」という点に目を向けて進めていきたいと思っています。



<助成金採択研究発表者> (発表順)

研究員	学生	担当教員	発表タイトル
根橋 玲子 神崎 真弓	矢倉 有莉 近藤 菜々子	磯野 彰彦	燕三条地域の加工技術とグローバル優位性(2年目) —海外の金属加工クラスターとの連携を目指して—
鶴沢 真	—	天笠 邦一	大学生のキャッシュレス決済の利用実態に関する実証分析 —フリマ決済(メルペイ)やQRコード決済(楽天ペイ, PayPay, LINE Pay等)による決済行動に関するアンケート調査—
大嶋 淳俊 宮本 真一	後藤 史帆 生田目 咲 吉田 裕香	磯野 彰彦	“東京で識る東北” ~復興支援を目指して、アンテナショップの観光PR機能の強化に関する研究
高橋 恵子	—	—	子どもの自立、職業選択における家庭の果たす役割についての研究
石川 航平	田中 佑佳	—	大学生がつくる女性起業家年鑑出版プロジェクト
大木 義徳	—	—	日本の外国人向け社会統合政策 (Migrant integration policy) の現状と課題
熊坂 敏彦	—	—	「地場産業」を中核にした「地域創生」についての研究 —「循環型地場産業」の事例研究(3)
大賀 暁	—	小森 亜紀子	ペット関連新事業の進展状況調査と市場枠組みのデザイン
西村 美奈子 遠藤 佳代子	—	—	マチュア世代の働く女性のセカンドキャリア—諸外国と日本の比較研究—
食プロ	松嶋 里菜	不破 眞佐子	ローリングストックと非常食レシピに関する実践的な防災教育研究 —備蓄・非常食の考え方の普及とレシピの深化—

助成金採択プロジェクト

現代ビジネス研究所では、研究員の研究活動を支援するために、優れた研究に対して研究経費の一部を助成しています。学生と協働するプロジェクトには本学教員がアドバイザーとして参加し、学生は実務経験豊富な研究員と共に実践的な学びを深めています。

2020年度は以下の10件が採択されました。また、これまでの活動状況は現代ビジネス研究所ホームページで公開している「紀要」でご覧いただけます。

研究員	研究テーマ
大賀 暁	ペット関連新事業のイノベーションに必要な社会変化と支援の仕組み
大嶋 淳俊	地域活性化を志向した産学連携による新商品・サービス開発プロジェクトの効果と持続性の要件に関する研究
大橋 重子	個人と組織の交渉がキャリア意識に与える影響 —日本企業におけるアイディールズ (Idiosyncratic deals) の先行要因とその影響—
熊坂 敏彦	「循環型地場産業」と持続可能な地域循環型社会形成についての事例研究 —SDGsの実現に向けた地域産業政策課題の析出—
棚橋 慶太	組織戦略と管理会計研究 —組織成員の行動を介して導かれる戦略変化・形成と、管理会計の活用に関する研究—
段谷 憲 (食プロ)	大規模災害のためのローリングストックと非常食レシピ普及に関する研究 —ローリングストックマネジメントの確立と普及への施策—
鶴沢 真	キャッシュレス決済における社会関係資本の機能 —スマホ決済における利用者の一般的信頼と決済事業者への信頼の役割—
西村 美奈子 遠藤 佳代子	マチュア世代の働く女性のセカンドキャリア 地域社会へ活躍の場を移す際の課題
根橋 玲子	地域の加工技術とグローバル優位性(3年目) —燕・金沢の地場産業と台湾との連携可能性—
山本 享	高齢者就業拡大に向けた継続的な大学生プロジェクト活動が地域に与える影響 —活性化指標である経済効果と非経済効果による検討、新潟県糸魚川市を事例として—

(代表研究員50音順)

現代ビジネス研究所認定 教員主導型プロジェクト

現代ビジネス研究所では、主に外部団体とコラボレーションした教員主導型のプロジェクトについても、研究所のプロジェクトとして認定しています。現在以下のプロジェクトが稼働中です。

研究プロジェクト名	協働団体	担当教員
株式会社三恵×昭和女子大学プロジェクト	株式会社三恵	高木 俊雄 石垣 理子 小森 亜紀子
「女子大生が恋する!」井の頭線プロジェクト	京王電鉄株式会社	高木 俊雄 小森 亜紀子
アサヒ飲料×昭和女子大学 健康チャレンジプロジェクト	アサヒ飲料株式会社	高木 俊雄
昭和女子大学×香取市 地方活性化プロジェクト	千葉県香取市	高木 俊雄
UBS銀行プロジェクト	UBS銀行東京支店	浅田 裕子
Hult Prize Project	Hult Prize Japan	八代 尚宏
株式会社和郷×昭和女子大学 「甘トマト」ブランディングプロジェクト	株式会社和郷	高木 俊雄